





















マラウイ政府は、日本のODA支援により整備された空港のインフラ施設を最大限活用し、航空産業の発展につなげるには、実施体制において更なる質の向上と持続性の確保が重要であると認識しており、日本政府に対し、航空管制や航空保安設備維持管理等の人材を育成する技術協力を要請した。

これを受けて、JICAは、同国民間航空局に対し、研修の実施やシラバス・教材の作成などを通じ、航空安全に携わる人材の育成を支援するため、2014年4月から2016年5月まで、安全な航行に関する機材のオペレーションとメンテナンスに関する技術協力を実施した。

また、(1)で実施する航空機監視システムの整備に伴い必要となる航空管制官の人材育成やシステムの運用・保守の管理を行うため、マラウイ政府の要請に基づき、2017年6月から2019年11月まで(予定)、技術協力が実施される予定である。

#### (事業の効果)

カムズ国際空港は老朽化が進み、2009年に航空安全上重要な機材が故障し十分な安全性が確保できていない状態であったため、利用する航空会社が極端に少ない状態が続いていた。航空航法システム改修計画の実施により、航空管制機材が更新され安全性が向上した結果、2012年には5,635回であった航空機発着回数が、翌年には13,972回へと約2.5倍に増加した。今後、ターミナルビルの拡張や更なる機材整備のほか、人材育成の進捗により、安全性の確保と乗客数の増加が一層進むと見込まれている。

#### (視察の概要)

派遣団は、1月17日午後、カムズ国際空港を訪問し、ボングウェ(Bongowe)運輸・公共事業省カムズ国際空港局長、チャタイカ(Chattaika)空港開発公社CEO等から歓迎を受けた。また、(1)のコンサルタントである株式会社ジャイロスの山口高男代表取締役及び同コントラクターである丸紅プロテックス株式会社の田中康博建設・エンジニアリング部長が現地に同行した。

視察は、ターミナルビルの1階のチェックインカウンターから始まり、改修・拡張後の姿について、ボングウェ空港長から説明があった。現在、出発用のカウンターとして利用されているスペースに国内線ターミナルビルを設けるとともに、その裏側に、新たに国際線出発ウイングを設けること、さらに、管制塔の裏側にも国際線到着ウイングを設けることなどが説明された。次に、管制塔の視察が行われたが、管制塔内部のエレベーターが故障し、部品がなく1年近く修理ができていなかったため、ビルの10階相当分を全員が徒歩で上がることとなった。管制塔では、空港敷地内を一望できるシチュエーションを利用して、新設する空港の全体像について改めて説明が行われるとともに、(1)の事業で整備される航空機監視システムについて説明を受けた。同システムの整備により航空の安全性が大幅に増すことにより、上空通過や離発着便数の増加が期待され、ICAOから出されている改善勧告の期限(2020年)前の基準達成(によるブラックリスト入り回避)も見込まれているとのことであった。さらに、

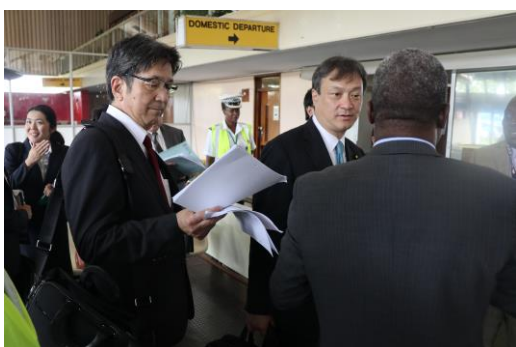
チャタイカCEOから、日本政府からの無償資金協力で空港敷地内に設置された太陽光発電システムについて、発電規模、用途等について説明があった。同施設は、空港の安全な運用に役立っており、電力事情の悪いマラウイにとっては、空港以外の用途でも貴重な設備であると説明を受けた。

派遣団は、空港内で記念撮影を終えた後、隣接地にある航空学校を訪問した。航空学校では、シドニー（Sidney）校長から歓迎を受けた後、マラウイにおける航空人材の育成状況や「航空管制人材育成プロジェクト」についての説明を受けた。その後、同プロジェクトで供与されたシミュレーターを用いた授業の様子を視察した。

全体の視察終了後、堀井議員から、以下のとおり発言があった。

<堀井議員の発言概要>

- ・マラウイ経済を支えるカムズ国際空港に係る日本政府からの長年にわたる貢献を確認することができた。
- ・同空港がICAOから航空監視システムにつき改善勧告を受けているが、日本の支援により、期限前に改善しようとしている点を理解した。



空港内を視察する派遣団



管制塔内で説明を受ける派遣団

## 6. 在マラウイ日本大使館

派遣団は、1月17日午前、日本大使館を訪問した。同大使館は、2008年1月にリロングウェ市内に開設されたものであるが、賃貸ビルに間借りする形をとっている。入館者に対するチェック等で一定のセキュリティー上の対策が講じられていた。

## 7. JICAマラウイ事務所

派遣団は、1月17日午前、リロングウェ市内のJICA事務所を訪問した。同事務所は、1971年にブランタイヤ市に設けられたのが最初であり、その後1989年2月にリロングウェ市内に移転したものである。なお、業務拡張に伴い2004年に現地に移転した。建物は3階建てであり、周囲が塀で囲まれていた。

同事務所では、マラウイにおける一村一品運動の歴史等について担当職員から説明を受けた。

## 第4 意見交換の概要

### 1. カバンベ外務・国際協力省次官との意見交換

派遣団は、1月17日午前、カバンベ（Kabambe）外務・国際協力省次官との意見交換を行った。その概要は以下のとおりである。

<カバンベ次官の発言概要>

- ・日本の支援に感謝。特にカムズ国際空港は、もともと日本の支援で完成したものであり、特別な対応、計画的支援に感謝する。
- ・マラウイのGDPは一人当たり250ドルを切る。
- ・2015年の洪水、2016年の干ばつが続いた影響が残る。農作物生産能力の向上の支援が必要。
- ・エネルギー分野では、現在900メガワットの需要のうち350メガワットしか発電能力がない。格段の協力を願う。
- ・人的支援の面では今後とも格段の配慮をお願いしたい。

<堀井議員の発言概要>

- ・昨年8月にナイロビでTICADVIが開催され、成功裡に終わった。今後も、TICADスキームを通じてマラウイの発展に貢献したい。
- ・マンゴチ橋で日本貢献を示す銘板がなくなっていることを懸念する、日本の貢献をマラウイの人々に理解してもらうことは非常に重要である。

<カバンベ次官の発言概要>

- ・TICADVIの際に、300億ドルの「アフリカの未来への投資」が表明されたが、マラウイの灌漑設備、運輸セクター開発に是非とも投資していただきたい。
- ・銘板の盗難については、すぐに対応したい。

<杉尾議員の発言概要>

- ・経済発展には農業の多角化や観光など付加価値の高い産業を育成することが重要。

<カバンベ次官の発言概要>

- ・経済発展にはインフラ整備が不可欠。TICADVIの仕組みが有用となる。
- ・農業の多角化はJICA指導の下、実績を挙げつつある。今後は他の民間セクターでも指導をお願いしたい。



カバンベ次官との意見交換の様子

## 2. カサイラ外務・国際協力大臣、ムバンゴ運輸・公共事業大臣、ムソサ教育・科学・技術省次官等との夕食会における意見交換

派遣団は、1月17日夕方、リロングウェ市内のレストラン（Latitude）において、夕食会を開催し、カサイラ外務・国際協力大臣、ムバンゴ（Mbango）運輸・公共事業大臣、ムソサ（Msosa）教育・科学・技術省次官等と意見交換を行った。その概要は以下のとおりである。

### <堀井議員の冒頭発言概要>

- ・本日まで二日間にわたり、マラウイでODAに関する案件の調査を行った。この間、マラウイの皆様が大変親切にさせていただき、調査が順調に進んだことに感謝申し上げる。
- ・マラウイには、日本から累計で1,700名以上の青年海外協力隊が訪れた実績があり、現在も70名程度が活動しており、世界の中でも有数の関係の深さがある。
- ・ODAについては、今後とも貴国の改善に役立てていただきたい。

### <カサイラ大臣の冒頭発言概要>

- ・マラウイは、現在急速に発展しており、道路、鉄道、水道などのインフラ整備の必要性が高まっている。
- ・日本から、JICAを通じて、インフラ支援だけでなく、青年海外協力隊等の人的支援もいただいている。自分自身も青年海外協力隊のプロダクトである。援助の継続性が重要であり、今後とも格別の支援をお願いしたい。
- ・本日は、マラウイから3つの省の関係者が出席しており、今後の両国関係をさらに深める契機としたい。

夕食会では、日本側は、派遣議員団のほか、柳沢マラウイ大使ほか日本大使館関係者、JICA事務局長、参議院事務局職員と、マラウイ側は、外務・国際協力省、運輸・公共事業省及び教育・科学・技術省の三省関係の大臣、次官、局長が出席し、各自意見交換を行った。その主な内容は次のとおりである。

- ・青年海外協力隊について（マラウイ派遣の歴史、現在の評価、今後の可能性等）
- ・JICAについて（JICAマラウイの規模、歴史、マラウイ社会への貢献等）
- ・マラウイにおけるインフラ整備について（上下水道、空港、道路、鉄道、電力等）
- ・マラウイにおける今後の産業の可能性について（観光、工業、農業等）
- ・マラウイにおける教育の現状・課題について（義務教育制度、識字率、進学率等）
- ・今後の日本のODAにおける貢献のあり方（運輸・公共事業分野、教育分野等）

なお、2時間半程度の夕食会の間に短時間の停電が10回程度発生した。首都においても頻繁に停電が発生するとのことであり、同国における厳しい電力事情を因らざるも体験することとなった。

### 3. 青年海外協力隊員、JICAシニアボランティア専門家・コンサルタント及び国連機関職員との意見交換

派遣団は、1月16日昼、同夕方及び17日昼の3回にわたり、マラウイ在留邦人との懇談会において意見交換を行った。以下はその概要及び主なテーマである。

#### (1) 青年海外協力隊員との懇談昼食会

1月16日昼、マンガチ県にあるサンバード・ンコポラホテル内のレストラン（クラブマココラ）で昼食会が行われた。近隣の学校や役所に派遣された青年海外協力隊員4名（男性1名、女性3名）と、以下の事項等について意見交換を行った。

- ・マラウイでの生活上の苦勞、勤務状況、休日の過ごし方
- ・派遣終了後の進路希望

#### (2) 青年海外協力隊との懇談夕食会

1月16日夕方、在マラウイ日本大使公邸で夕食会が行われ、近隣の学校、医療機関、役所等に派遣された青年海外協力隊員10名（男性4名、女性6名）と、以下の事項等について意見交換を行った。

- ・マラウイでの生活上の苦勞、勤務状況
- ・派遣終了後の進路希望

#### (3) JICA専門家・コンサルタント及び国際機関職員との懇談昼食会

1月17日昼、在マラウイ日本大使公邸で昼食会が行われ、灌漑、一村一品運動、空港整備計画及び教育の各分野の専門家・コンサルタント等国際機関の現地事務所及び国連世界食糧計画（WFP）に勤務する日本人職員と、以下の事項等について意見交換を行った。

- ・マラウイでの勤務状況
- ・マラウイの将来に対する見通し、日本のODA支援のあり方
- ・マラウイの食料事情、効果的な食料支援のあり方、そのための日本政府の役割



青年海外協力隊員との昼食会後の記念撮影



シニアボランティア等との記念撮影